平成20年12月22日

［認知症対応型共同生活介護用］

# 1.　評価結果概要表

作成日　平成20年12月 22日

## 【評価実施概要】

| | |
|---|---|
| 事業所番号 | 0370500449 |
| 法人名 | 社会福祉法人　　悠和会 |
| 事業所名 | 認知症共同生活介護「銀河の里」 |
| 所在地 | 岩手県花巻市幸田4－116－1<br>（電　話）0198－32－1788 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評価機関名 | （財）岩手県長寿社会振興財団 | | |
| 所在地 | 盛岡市本町通3丁目19－1　岩手県福祉総合相談センター3F | | |
| 訪問調査日 | 平成20年11月18日 | 評価確定日 | 12月22日 |

## 【情報提供票より】（ 20 年 10 月 20 日事業所記入）

（1）組織概要

| | | |
|---|---|---|
| 開設年月日 | 平成　13　年　4　月　1　日 | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計　18　人 |
| 職員数 | 18　人 | 常勤　9　人，非常勤　6　人，常勤換算　4 |

（2）建物概要

| | |
|---|---|
| 建物構造 | 木造　造り |
| | 2 階建ての　1 階 ～　2 階部分 |

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 家賃（平均月額） | 18,000　円 | | その他の経費（月額） | 10,000　円 |
| 敷　金 | 有（　円） | | 無 | |
| 保証金の有無<br>（入居一時金含む） | 有（　円）<br>無 | | 有りの場合<br>償却の有無 | 有／無 |
| 食材料費 | 朝食 | 350　円 | 昼食 | 400　円 |
| | 夕食 | 400　円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり　円 | | | |

（4）利用者の概要（ 10 月 20 日現在）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用者人数 | | 18 名 | 男性　4 名 | 女性 | 14 名 |
| 要介護1 | | 3　名 | 要介護2 | 5 | 名 |
| 要介護3 | | 4　名 | 要介護4 | 4 | 名 |
| 要介護5 | | 2　名 | 要支援2 | － | 名 |
| 年齢 | 平均 | 81.1 歳 | 最低　66 歳 | 最高 | 95 歳 |

（5）協力医療機関

| | |
|---|---|
| 協力医療機関名 | ゆかわ脳外科、藤巻胃腸内科クリニック |

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

花巻市郊外の閑静な高台に立地し、同法人のサービスセンター、知的障害者通所授産施設等と有機的に連携を図り、相乗効果をあげている。特徴的なことは、経営の中に大規模な稲作と、ガラス温室を利用した「大葉」の生産を取り入れ、販売まで行い、地域との結びつきを大切にしていることである。

## 【重点項目への取り組み状況】

**重点項目①**

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

災害対策については、緊急通報装置を各事業所に設置し、緊急連絡網を作り、すぐ近隣在住のスタッフが駆けつけ避難させることが出来るように、年2回訓練も実施されている。今後の予定として集合訓練、夜間の避難訓練も組まれている。バランスのとれた食事を提供するために今後も法人内の栄養士に随時メニューを点検してもらうことにしている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

毎月のケアプラン作成会議で、理事長、施設長はじめ職員全員で検討し合い、その都度課題解決に取り組んでいる様子が窺える。また、家族との連携、各職員の自己評価結果によるサービスの質の向上にも積極的である。

**重点項目②**

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

今年度5月に1度開催しているが、11月と3月にあと2回予定している。法人内のデイサービス、グループホームの利用者の家族の代表者、地域代表、市の担当者、法人事務局（4名）と計10名で開催されたが、主として情報交換と今後の予定に対する協力の呼びかけをして理解を頂いている。市の担当者から家族会設立の助言がなされた事例もあった。

**重点項目③**

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

苦情相談窓口、第三者委員会を設置し、苦情受付、対応ノートを作成し、これからのサービスの質の向上に活かすように努めている。また、日頃家族との交流の中で、意思の疎通を図るようにし、苦情等発生の未然防止に努めている。

**重点項目④**

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

当地域の居宅支援事業所、包括支援センターと法人内の関係者による在介連絡会議を通じて情報を共有し、また、法人内のワークステージ、デイサービスと一体となり、季節の行事、地域の催しものには積極的に参加するようにし、地域との結びつきを大切にするよう心がけている。

# 2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | | |
| 1．理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 人、地域、自然、その他様々な出会いの中で、創造性あふれた暮らしをつくりたいという理念の通り、恵まれた環境の中で併設のデイサービスと知的障害者授産施設ワークステージと日常農業をを中心にすえて交流する中で、相乗的向上が図られるように良く工夫されている。近隣、地域、支援してくださる方々と密接な関係を持ち続けている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎日の申し送りミーティングや月に一度のケアプラン会議でケアの向上に向けて話し合いが行われている。ケアプラン会議には、理事長、施設長、ワークステージ、デイサービス、グループホーム（2ﾕﾆｯﾄ）から1名ずつ出席し、開催されている。 | | |
| 2．地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域公民館でのしめ縄つくりや近隣の神社の宵宮や花巻祭りの見物など、地域の行事に参加している。また、当法人の行事として夏祭りや収穫祭が行われており、地域の方々も若干だが参加されている。 | | 運営推進会議や地域への広報活動での呼びかけにより、法人の夏祭りや収穫祭へもっとたくさんの地域の方々が来て頂けるのではないかと思われる。 |
| 3．理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員は素直に自己評価をされている様子で、毎年行っているせいか、殆んど要改善がなく、健全な形で運営されている姿が感じられる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年度、都合により5月に開催されただけであるが、あとは11月と3月開催予定である。情報交換が主になっているが、これから予定されている会議では、新しい内容の提案もなされるのではないかと期待される。ホームページの開設等の提案もあった。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携<br><br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域の居宅事業所（社協）と包括支援センターと当法人主催の在宅連絡会議等を通じて連携は取っているが、あくまでも必要に応じて開催される様子である。 | | 更なる充実のため、特に地域包括支援センター等と連携を深めていくことが期待される。 |
| ４．理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月一回は広報（あまのかわ通信）を発行し、ホームの様子を知らせている。その他体調不良や、出来事などがあった都度電話で連絡をとっている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口と第三者委員を設け、さらに苦情受付ノートを用意して、対応されている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 併設の施設と行き来が頻繁にあり、利用者も自然に顔なじみになっている。また、職員の異動の際には、施設長が職員たちの意見を聞いてから実行している。現在までのところ、全くスムーズに運営されている様子である。 | | |
| ５．人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の講習、研修会には職員が交代で代表が出席し、内容を職員全員に報告し、法人内でも定期的に検討会を開き、自己を見つめ直す機会を作っている。 | | 2ヶ月に1回は理事長の講和を含めた銀河セミナーが開催され、意識の向上に努めている。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 殆んど毎月グループホーム協会の会合に管理者が参加し、必要な情報を得ている。また、福祉関係者の見学受け入れも活発である。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 申し込み後の待機中は、グループホーム等のあらゆる環境に慣れる為にも、併設のデイサービスの利用を勧めたり、家族と相談しながら工夫している。 | | |
| 2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 特に農作業を行なう機会が多く、利用者から若い職員は教わることが多々ある様子である。利用者と職員の合作である「おしるこ」を頂いたが、小豆の味つけを教わったようで素晴らしい味だった。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 1．一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員1名が2～3人を担当して、毎月の業務日誌を月ごとに振り返り、ケアプラン会議を開き、困難なケースはその都度ケース会議を開いている。家族とのやりとりは、利用者の担当職員が行なっている。 | | |
| 2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 毎月、ケアプラン会議を各グループホームの主任と、担当部署スタッフ参加で開催し、担当が1ヵ月の評価を検討し、翌月のケアプランを立てている。担当職員は大変のようであるが、利用者のこれまでになかった部分も発見することがあり、やりがいを感じている様子である。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | サービス計画書を3ヵ月に1度見直しを行なっている。また、必要により随時見直しを行っている。他に毎月のケアプラン会議で1ヵ月の様子を振り返っている。身体状況等の細かい変化は、その都度担当職員が家族に連絡をとり、施設の看護師や主治医と相談し対応している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人の希望により、地区公民館でのフィットネス、コーラス等のサークル活動に参加し、その都度付き添いを行なっているケースもある。病院受診などの際には、原則は家族が行なうことしているが、家族の要請があった場合は、職員が介護保険外オプション料金を設定し送迎を行っている。 | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 日々の介護日誌やバイタルチェック表、食事の摂取量の記録等を用い、かかりつけ医とは情報のやりとりを丁寧に行っている。必要に応じて、職員が病院に出向き直接相談をお願いすることもある。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 利用開始の際には、重度化した場合や終末期のあり方について家族や本人、かかりつけ医に説明し方針を共有している。 | | |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**<br>１．その人らしい暮らしの支援<br>（1）一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個別ファイルを作り、個々の記録や情報は厳重に保管、管理されている。また、言葉かけや接し方も丁寧で、思いやりの心を持って介護に当たっている様子が窺える。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ケアプラン会議で1ヶ月を振り返り、利用者ごとの状況を検討し、職員間で共通の認識のもとに、個々の利用者に合ったサービスの提供をするように進められている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事作りの得意な方が何名かおり、食事作りの時間になると台所に集まってきて始められる方、後片付けをする方など、その方のやりたいことを尊重するようにして自然体で行動できるようにしている。見守りにも配慮されている。昼食はワークステージから配食されるが、朝夕はグループホームの職員と利用者が食事作りをする方法をとっている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴の時間は一応の目安はあるが、それぞれの希望の時間に入浴出来るようになっている。時々はデイサービスの大きな風呂の入浴も希望により可能である。家族、スタッフと温泉に出掛けることもある。 | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 併設の授産施設での農作業への参加、見学、自家菜園でのスタッフと一緒の軽い農作業、収穫など施設の中に閉じこもらないよう支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩、買い物、祭りや地区の行事への参加など、外部に出かける機会を多く作るように行事の持ち方の工夫がされている。 | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 外部からの不審侵入者による被害防止もあり、夜勤者の勤務開始の後、簡単な施錠をしている。逆に利用者のプライベートな時間をとりたいと言う希望から居室の内鍵をかけられる方もいるが、職員の安否確認の巡回時、非常時には簡単に開けられるようになっている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の指導もあり、非常時に備えて訓練を重ね、内容の徹底を図っている。すぐ近くに職員の寮があり、夜間でも数分で職員が駆けつけることが出来るような体制があり、特徴的である。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 法人の栄養士に年1回以上は、献立表の点検をしてもらい、栄養のバランス、調理法、食事介助法などの指導を受けている。食事の摂取量、水分摂取量（排尿回数）などもこまかく記録に残されている。 | | |
| 2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>（1）居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 四季折々の風景が玄関、テラス、各居室から眺めることが出来るように建物が造られており、小高い丘に立地されているため、地域の農作業の進む状況も眺めることができ、隣接するデイサービスに出掛けると、そこには、薪ストーブや囲炉裏があり、温かみのある心安らぎの空間がある。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室が安らぎの空間になるよう、私物の持込は自由で、利用者によっては写真、自作の絵なども飾られ、位牌、テレビも持ち込まれれている。 | | 室内の明るさは、外の天候にもよると思われるので、こまめな照明変化が必要ではないかと思われた。 |